

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772401457
法人名	有限会社 つくし野
事業所名	グループホーム つくし野
訪問調査日	平成 21 年 11 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 22 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2772401457
法人名	有限会社 つくし野
事業所名	グループホーム つくし野
所在地	大阪府枚方市山之上町4丁目18番15-13号 (電話)072-843-0043

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成21年12月22日

【情報提供票より】(平成21年10月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.6	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月25 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低 74 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘友恵会病院・ともだくりニック・野口歯科医院・やわらぎ接骨院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アパート1階部分を改修して開設した単独型のグループホームである。裏山に神社の森があり、前は畑で自然環境も豊かで、昔ながらの木造住宅の良さが生かされている。代表者でもある施設長の高齢者福祉への熱い思いが、介護の質をきわめて高いレベルにしている。管理者のリーダーシップで市内でトップレベルのグループホームを目指して日夜職員が頑張っている。認知症であっても地域社会に出かけながら、ホームでは役割、楽しみ事など出来ることを活かして共に寄り添い支えあうやすらぎのある日常生活が実現している。家事全般を利用者が職員と共同で行い、毎日の散歩を全員の日課とするなど、生活リハビリに力を入れている。近い将来には新しい移転も検討中である聞き、早く適当な所が見つかることを願う。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員のスキルアップを図るために、内、外部実施の計画を立て、年間計画を作成し、教育、研修実施を組織的に取り組む事を改善課題とした。新しく年間計画が作成され、施設長の指導のもと外部研修にも頻りに参加し職員全体で共有する仕組みが出来ている。職員持ち回りで研修課題を作成し発表され工夫と改善が行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえて改善計画を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。地域の代表者の協力も強く得られて、地域密着の推進に寄与している。外部評価結果の報告や、事業所の状況報告が行われている。今後は、職員が作成している・・・いいところ見つけたノート、要望ノート等、介護の現場の様子を参加者に知ってもらおう報告も期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時や家族会の時、また、運営推進会議の場でも家族の意見や要望を聞く機会を設けている。毎月の請求書送付時職員の手書きの手紙が添えられ近況をお知らせする取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会は無いが地域福祉の案内や近隣の情報やお誘いで、地域の様々な行事に参加している。地域の商店や飲食店との馴染みも出来、散歩のときに声かけてもらったり、畑で収穫した野菜も頂くこともある。近所の認知症を抱える家族や介護予防の相談窓口としての高齢福祉の機能も果し始めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「つくし野は住み慣れたこの地域で老いても豊かな人生を求め、自分らしさを大切に寄り添い支えあうやすらぎのある家」として、利用者が地域に溶け込んで暮らし続ける支援を明確に表現したものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は引継ぎ時や定例ミーティングの時に、日常の仕事が、理念で示すケアの内容に沿った行動になっているかを確認しあっている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の福祉推進事業が主催する「唄の会」「体操の会」「ふれあいサロン」や小学校の運動会、自治会の夏祭り、地域ボランティアの「オルゴールの会」などに参加するなど、積極的な交流を深めながら隣近所とも親密な付き合いが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業者が行っている定期的な自主点検と共に、サービス評価時の自己評価、家族のアンケート、および外部評価を参考にして、「市内ナンバーワン」のグループホームの実現を目指して全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催され、行事、活動の報告、利用者の状態の変化、入退去の報告が行われている。また施設の課題などを議題として参加者の意見を求めている。	○	運営推進会議では、参加者による積極的な意見交換が行われている。事業所からの報告の中に、職員が日ごろから改善したり、工夫した試みを発表しては如何であろうか？ 外部の者には、職員の苦労や工夫について知らない人も多い。介護職を正しく理解してもらうことは、介護職の社会的地位向上にとっても有効ではないかと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者や事業所運営の課題を相談したり、行政の情報を入手したりする関係が、開設時から構築されている。グループホームの新たな問題や課題についても、市の窓口担当者に相談したり意見交換できる関係にある。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、本人の健康状態や最近の暮らしぶりを詳しく伝えるようにしている。小口現金の出納にも目を通してもらい、又家族からの要望を聞きだすようにしている。毎月の請求書送付の時にも利用者の様子を手紙で報告している。緊急の相談や報告は都度電話にて対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議で意見、不満、苦情を言える機会を設けられている。当事業所以外の相談苦情窓口(第三者機関等)についても入所契約の時に説明をして、家族からの希望や要望を聞く姿勢を伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極めて少ない事業所である。職員が永く勤めているので、利用者も家族も安心であり、このまま移動が少ないことを願っている。施設長は職員の仕事の分担及び役割を職員の希望や能力に応じて配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者である施設長が職員の育成に力を入れている。職員の適正を見極めて、日ごろの業務の中でやさしく且つ厳しく指導を行っている。研修計画を立てて、内外の研修への参加を積極的に推進している。外部研修参加者は受講内容をミーティングで報告して、学んだ知識を職員同士で共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が主導する、地域グループホーム交流会に管理者や職員が交替で参加して、お互いの施設を訪問したり、事業所運営のノウハウや認知症ケアに関する情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が勧めても本人自身が納得しない事例もあるので、必要により数回の訪問を行う時もある。見学やホームで食事などをして日中過ごすなど、安心して新しい生活に入れるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の生活歴や、環境、趣味等の本人に関する情報を頭に入れながら会話をし、お互いの信頼感を積み重ねるようにしている。相手を先輩として尊重した言葉使いや態度で接することで、心を開いてもらうように心がけている。家族的な雰囲気の中で、利用者から学んだり支えあう、良き関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動を注視して、気付きを大切にしている。本人の生活習慣、日常の生活リズムを基本として、無理強をしないうで、本人の好きな時間の過ごし方を支援するようにしている。「幸せノート」や「要望ノート」を作って、利用者の好きなこと、したいことを職員が把握することを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し把握が実践されている。					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアチェック表で出来るだけ多くの利用者に関する情報収集を行い、本人、家族の要望や暮らし方の希望を聞き、職員がそれぞれの意見を出し合って、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画書はすべての家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月、6か月に1回の介護計画の見直しが実施されている。状況変化に迅速に対応し、介護計画の見直しができる体制が出来ている。定例の職員ミーティング時に利用者の最近の変化を報告し、職員で情報共有を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として出来る限りの融通を利かせながら、家族の環境や状況、要望に対応している。通院支援、外出支援、買物代行などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を尊重しながら、かかりつけ医の決定を行っている。訪問看護による医療支援を含めて、入院時の早期退院の推進など、提携の医療機関の医師ときめ細かな連携を取りながら、医療面の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、重度化や終末期の対応についての事業所の考え方を説明して、「看取りの指針」として家族・職員が共有するようにしている。最近、家族の希望もあり、かかりつけ医の支援の元に、職員が協力して居室による看取りの経験をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人の尊厳に配慮した行動が取れているかについて、定期的に自己チェックを実施して、徹底を図るようにしている。書類の管理等についても配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	若い管理者の目指す「パーソンセンタードケア」の実践として、本人本位の支援を徹底している。利用者の生活パターン、生活リズムを尊重しながら、家族としての共同生活をうまくかね合わせるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから、メニュー作り、調理に至るまで家庭らしさにこだわりを持って行われている。家事全般を自立支援ケアの重要項目に位置付けた内容で実践されている。週に1度は順番で好みのメニューを聞き、買い物、調理まで一緒に行うようしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日程表は作成されているが、本人の体調、希望に合わせて随時変更、調整している。無理強いせず、種々の工夫、対応をしながら入浴支援をおこなっている。入浴嫌いの利用者の場合は、全職員が知恵を出し合って、入浴をするように工夫と努力を重ねて来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が「つくし野」で張合いのある暮らしが出来るように、全職員が相談しながら支援を行っている。家事の好きな方には参加を促し、野菜は包丁を使用せず手で千切られていた。他の利用者は歌を歌ったり、ダンスをするなど、1日1回心から笑ってもらえることを目標にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は全員の利用者が毎日の日課としている。業務日誌でも利用者全員の散歩チェック欄が設けられているほど徹底されているので、ADLの維持や健康管理面においても効果が大きいと思われる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。職員の目が行き届く内部のレイアウトとなっている。なお且つ、職員の見守り、気くばり目配りが徹底されているように思われる。安全面にも配慮して、すぐ側で見守る工夫もされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	アパートの一部から出火した想定訓練など、定期的に避難訓練が行われている。消防署と連携して、要援護者避難支援対象者として登録するなどの対策も講じている。アパートの他の住人の支援も得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を豊富に使った食事が提供されている。利用者ごとの食事摂取量、水分補給量が記録されて、健康状態の管理データ化している。食事内容の内容について、使用した食材を含めて記録して、保管されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパートを改装してあるために、スペースに余裕はないが、居間兼食堂、廊下、トイレ等夫々が工夫してレイアウトされている。比較的廊下部分は広く、窮屈さを感じることはない。廊下の突き当りにはソファを置くなどして、利用者の居場所として、あるいはくつろぐ場所として確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室や洋室があり、馴染みのタンス、写真、手工芸品、お仏壇等々が持ち込まれている。事務所の奥にも居室があるなど、普通の家のような雰囲気と生活の継続性が確保されている。		